学校番号	T3016

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ⅰ	単位数	１単位	年次	４年制２年次
使用教科書	新　高校の数学Ⅰ　（数研出版）						
副教材等	授業プリント						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業では、課題に対して、自ら考え、周りの人と協働で考える活動を行います。
・「定義・公式を知る⇒例題を教員と一緒に考える⇒例題を解決する⇒演習問題に一人で取り組む⇒演習問題を自力で解決する⇒解決の過程を振り返ってよりよい解決を考える」といった過程で自ら考えることを主軸として活動を行います。
・途中の式を必ず書きましょう。
答だけを書くのではなく、途中の式を書くことを大切にしてください。自分がどこで間違えるのかがわかり、振り返り学習が可能になります。
・定期的に課題を提出してもらいます。提出期限を守り、必ず提出しましょう。
・ノートを用意してください。
・中学校までの内容や、基本的な問題にも取組みます。

2　学習の到達目標

数と式、2 次関数、図形と計量、集合と論証について理解する。
また、基礎的な知識や技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにします。さらに、それらを活用する態度を育てることを目標とします。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	数と式、集合における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。 数と式、集合において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数と式、集合における数学的な見方や考え方を身に付けている。	数学の論理や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	集合と論証	集合	a:必要条件、十分条件など数学的な論理に必要な言葉を適切に使って表現することができる。 また、対偶を用いてい命題を証明することができる。 ド・モルガンの法則が成り立つことを確かめることができる。 集合の表し方を理解して、条件を表したり、証明に用いることができる。 ド・モルガンの法則の意味を理解し、問題解決に利用することができる。 必要条件、十分条件などや逆、裏、対偶などの用語を理解し、そのための知識を身につけている。 b:命題 p⇒q が真であることが、条件を満たす集合の包含関係と対応しているととらえることができる。 「かつ」、「または」、「でない」など数学で用いられる論理の言葉が集合の「∪」、「∩」、「￢」と対応していることを考察することができる。 結論を否定して推論を始めるという背理法の考え方ができる。 c:ド・モルガンの法則に気付き、この法則を問題解決に活用しようとする。 命題の逆・裏・対偶の関係が条件を満たす集合の関係に対応していることに気付き、これらについて調べようとする。	・定期考査 ・提出課題 ・問題演習 ・観察	・定期考査 ・問題演習 ・観察等	・受講の態度の確認 ・提出課題 ・問題演習 ・観察
		命題と条件				
後期		命題と条件				
		逆・裏・対偶				

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度